海外実習報告第４日目　９月 19 日(水)　　滝沢夕華，田中万貴

９：00 チャンタブリの園芸試験場に到着しました。最初に研究員のウタイ・ウラケットさんに施設の概要を説明していただいて，その後で試験場内を見学しました。

当試験場は高温多湿地域における植物栽培について，１）総合的な研究と革新的な技術の開発をすること，２）試験場職員や生産者に技術を普及すること，などを目的としていました。最近はドリアンについての研究がとりわけ進められています。ドリアンの研究のほかにも，マンゴスチンなどの果物，ブラックペッパー，ランといったような多種多様な果樹等の研究も行っています。様々な研究により，例えばマンゴスチンは，生の状態あるいは冷凍で中国，香港，日本などに輸出できるようになっています。 試験場の見学ではライチ，ココナッツ，マンゴスチン，マンゴーなどの樹木を実際に見ながらそれぞれについて収穫時期や収量など詳しく説明していただきました。

園芸試験場概要の説明

試験場内は北海道で見られないような植物が数多くあり，気候や土壌などその地域に適した植物が育てられ研究されていました。また，新しい技術を開発するだけでなく実際に農家に普及できることが重要であると感じました。

見学が終わり，明日の見学先であるパクチョンへ向かう前に，タイとカンボジアの国境を見に行く予定でした。移動中にフルーツマーケットがあったので，園芸試験場で説明していただいた果物が売られており，マンゴスチンや，ランブータン，ロンガンを購入しみんなで試食をしました。マンゴスチンは収穫の時期が１月であり今は旬の時期ではないため小ぶりでした。試験場の方に教えてもらったフルーツを実際に食べてみることによって，さらに学習を深めることができました。

園芸試験場内の見学

カンボジアとタイの国境へ向かっていた途中，洪水に遭遇しました。最近の激しいスコールによるものらしいのですが，街の人たちは特に慌てている様子もなく，子供たちは水に浸かって遊んでいるように見えました。私たちは見慣れない洪水を目の前に車の中で大騒ぎでしたが，ここの人たちはこの程度の洪水には慣れているようでした。道路にはタイヤの高さまで水があったため，私たちが乗っていた車の中にいつ水が入ってきてもおかしくない状況でした。街には多くのレスキュー隊も出動しており，道路は多くの人を荷台に乗せたトラック等で混雑していました。また，国境へと続く道はさらに水位が深くなっており，これ以上進むことは困難と判断し，来た道を引き返すことにしました。タイとカンボジアの国境を見る

ことができなかったことは非常に残念でしたが，それ以上にスコールによる洪水の様子を見ることができ，とても貴重な経験ができたと思っています。タイではこのような洪水に備えるため，住居も柱の上の高いところに建ててありました。また，田畑にはこの被害は及んでいないようでした。しかし，どれだけ備えていても全体に大雨が一斉に降れば，作物の倒伏や土壌の流出などの被害が少なからず出てしまうと思います。タイの雨季でこの様な洪水は仕方がないことだと思いますが，そんな自然災害を前向きにとらえ，上手に付き合っているタイの人たちは強くてたくましいと感じました。

洪水の現場